

# インナーメーショウ サーキュラー no. 27

1977年 8 月

## 目 次

I	第10回総会及び第17回運営委員会報告.....	1
II	第10回大会を終って.....	3
III	佐藤忠雄先生の御冥福を祈って.....	3
IV	事務局からの報告.....	4
V	会員異動.....	4

## 日本発生生物学会

名古屋市千種区不老町 (〒464)

名古屋大学理学部生物学教室内

## 事務局よりのおねがい

### 1. 会費納入のお願い

学会の会計が諸物価の値上り、会費滞納などのため大変苦しくなっています。会費の納入に御協力下さい。会費は同封赤色振替用紙にてお払い込み下さい。念のため、年間会費は昭和51年度まで4,500円、昭和52年度は6,000円です。

加入者名 日本発生生物学会 口座番号 名古屋 42801

### 2. 現在DGDの基金を募集中です（サーキュラーNo 22 参照）

1 □ 1,000円（1人何口でも可）

払込先 郵便振替名古屋 42801 日本発生生物学会

（振替用紙の裏面に“DGD基金”と記入して下さい）

### 3. サーキュラーへの投稿おねがい

学会員相互の交流のためいろいろな話題をおよせ下さい。学問上のこと（たとえば、意見の交流を求める話題の提供、トピックスの紹介、国際会議の様子、など）、研究室の紹介、学会への意見などいろいろあると思います。ふるって投稿して下さい。

なお、原稿は事務局庶務幹事、あてお送り下されば、幸いです。

インスタント人工海水

# アクアマリン

姉妹品

◇ ボースアクアマリン（海水魚淡水魚同時飼育剤）アクアマリンM  
（人口海水用添加液）アクアマリンK （海藻育成液）その他

## 八洲薬品株式会社 水産事業部

大阪市西区京町堀1丁目145 TEL 大阪(06) 441-3751(代)

## I 第10回総会及び第17回運営委員会報告

総会は5月28日午後、三菱化成生命科学研究所（町田市）セミナー棟講堂で行なわれた。議長は平本幸男氏。主な審議、報告は次の通り。

- 1) 51年度決算報告（別表）が石母田忠会計幹事によって行なわれ、柳沢富雄、五島喜与太両会計監査員より、帳簿を監査の結果適正であったことが報告された。
- 2) 52年度予算案が会計幹事より説明され、承認された（別表）。
- 3) DGD編集状況が、岡田節人編集主幹により報告された。編集局および印刷所の広島への移転準備状況が報告された（運営委員会の項参照）。
- 4) 国際発生物理学会議についての報告が団勝磨氏により行なわれた。なお、前夜の懇親会で寺山宏準備委員長よりくわしい報告が行なわれた。
- 5) 事務局より、1年間の事業報告がなされた。単行本編集状況、学会事務局の移転（運営委員会の項参照）についても報告された。

なお、学会設立時に、10年を経過した際学会のあり方について反省を行なうことが申し合わされ、会則にも記載されているが、来年が10年目に当たるので会員諸氏の検討が要請された。

### 昭和51年度決算

収 入		支 出	
前年度繰越金	399,331円	編集局経費	1,673,548円
学会費	4,121,161	事務局経費	794,674
DGD売上げ	3,687,496	DGD印刷製本費	4,551,520
広告代	86,000	第9回大会講演要旨印刷費	250,000
単行本売上げ	109,820	サーキュラー印刷費	102,200
文部省助成金	900,000	運営委員会経費	31,174
第9回大会委より寄付	100,000	第9, 10回大会援助費	100,000
DGD充実のための基金	635,400	運営委員・会長選挙費用	18,170
団氏記念論文著者負担分	375,000	会員名簿作成費用	66,500
DGD超過負代金	72,258	DGD別刷代金立替分	76,949
DGD別刷代金立替分	76,949	郵便振替手数料	35,865
銀行利息	11,053	銀行手数料	3,312
京都大学元事務局より移管	89,103	次年度繰越金	2,959,659
	10,663,571		10,663,571

昭和52年度予算

収	入	支	出
前年度繰越金	2,959,659円	編集局経費	2,075,000円
学会費	3,400,000	事務局経費	1,000,000
DGD売上げ	2,850,000	DGD印刷製本費	7,200,000
広告代	100,000	内訳	
単行本売上げ	1,500,000	Vol. 18No.4	1,630,000
文部省助成金	900,000	Vol. 19No.1~No.4	5,570,000
DGD充実のための基金	100,000	第10回大会講演要旨集印刷費	350,000
団氏記念論文著者負担分	1,100,000	サーキュラー印刷費	120,000
銀行利息	30,000	運営委員会経費	150,000
		第11回大会援助費	70,000
		国際発生生物学会議共催費	500,000
		単行本(受精の生物学)諸経費	469,000
		内訳	
		原稿料	369,000
		編集費	100,000
		郵便振替手数料	40,000
		銀行手数料	5,000
		予備費	50,000
		小計	12,029,000
		次年度繰越金	910,659
計	12,939,659	計	12,939,659

第17回運営委員会が5月26日、三菱化成初台寮で行なわれた。議事、報告下記の通り。

出席者：団会長、江上、江口、大西、岡田、加藤、金谷、黒田、酒井、竹内、古谷、水野、米田、渡辺（以上運営委員）、石崎、石母田（事務局より）、小嶋（DGD編集局より）。

§ 1. 51年度決算及び52年度予算案

審議、承認された。（明細は総会の項参照）

§ 2. 事務局移転

52年末で、名大事務局は2期（4年）完了となる。53年1月から、三菱生命研（幹事長加藤淑裕氏）への事務局移転が承認された。

§ 3. DGD編集状況報告

岡田編集主幹より報告された。なお、編集局および印刷所の広島への移転が、岡田主幹により精力的に検討されてきたが、下記のように報告、了承された。

DGD編集局は、Embryologia 時代から長年の間名大に置かれてきた。なかんづく小嶋編集幹事の労苦は筆舌につくしがたい。広島への移転（天野実編集幹事、印刷所は大学印刷KK）が検討されてきたが、ほぼめどがつくにいった。Vol. 20の刊行を境に広島移転の最後のつめを行なっていくことが了承された。

#### § 4. 単行本編集委員会報告

「変態」（日高敏隆編集）は、ほぼ原稿が集まった状況である。その次の「発生現象における分子識別」（岡田節人、金谷晴夫、堀田凱樹編集）も進行中である。

#### § 5. 国際発生生物学会議準備状況

水野運営委員より報告があった。演者130名、poster session 43題が予定されている。開催資金の募金の難波が報告され、本学会から共催費として50万円を支出することが議決された。さらに外人参加者に、PRをかねてDGD1部を贈呈することが決められた。

#### § 6. 53年大会開催地

国立遺伝研が候補として論議され、黒田運営委員が帰所後実現に向かって努力するとの意志を示された。その後快諾を頂き、現在三島での開催が確定している。期日他明細は、本年末発行予定のサーキュラーNo.28に掲載の予定。

## II 第10回大会を終わって

昭和52年度の第10回大会も幸いに天候にめぐまれて多数の方の参加を迎え、無事終了できましたことを心から喜んでおります。これもひとえに学会員諸兄姉の御援助によるものとお礼申し上げます。特にシンポジウム・ワークショップのオーガナイザー並びに講演者の方々と座長を心よくおひきうけ下さった方々には特別の御骨折りを頂き有難う存じました。会場の不備等色々御迷惑をおかけしましたことをお許し下さい。

都心を離れた交通不便な土地ですので何分と大会出席者の方々には御迷惑をおかけしたと存じますが、反面、学問的な面のみ没頭できた2日間であったとも存じております。

本年は、日本の発生生物学にとりましては特別の意味を持つ年であり、8月末より東京で第8回国際発生生物学会が開催されます。この国際学会を間近にひかえて、当大会から得ました印象は、若い研究者から団勝磨会長に至るまで、年齢を越えた活発な討論が行われ、亦懇心会に代表されたようななごやかな交流が自然に行われる発生生物学会は本当に楽しい良い学会であるということです。

本当に有難う存じました。

（大会委員長 加藤 淑裕）

## III 佐藤忠雄先生の御冥福を祈って

本学会会員、名古屋大学名誉教授・佐藤忠雄先生は、去る4月14日、老衰により安らかに天寿を全うされました。

先生は、東京帝国大学理学部動物学科を卒業されると同時に、ドイツに渡られ、長年に亘り、

Hans Spemann, Otto Mangold 両教授のもとで研鑽を積まれました。その間、水晶体再生現象の研究を通じて、数々のすぐれた業績を残されました。これらは、今日でも、この分野の研究者の大切な規範となっています。

昭和17年には、名古屋大学の生物学科創設に鋭意参加され、爾来、同教室を発生学中心の特色ある研究機関として国際的な評価を得るまでに育成されました。先生は、“Die Wahrheit wird euch Frei machen.”を座右の銘とされ、きびしく自己を律されると共に、自己の研究と後継者の育成に心血を注がれました。また、伝統的な学問分野の領域を超えた新しい学問研究の興隆についても、つねに偏見のない積極的な態度で臨まれ、その発展のために目立たぬ実質的な努力を傾けられました。

「研究は国際的に通用する報告の刊行を以って完了する」とのお考えから、国際誌の刊行を發起され、幾多の困難を乗り越えて、本学会の機関誌DGDの基礎となった“Embryologia”の創刊を実現されました。その基金調達のために、先生自ら中部地方の大企業に日参なさったとも聞き及んでおります。また、本会の創設に当っては、私心を忘れ、その実現に努力されたことは、いくらかの会員の方々の御記憶に新しいことと思います。日常、「たとえ“Embryologia”がどのように変わっていくとも、良い国際誌に発展すれば本望である」と語っておられました。本学会の歴代の会長、編集委員の方々、そして会員諸氏の御努力によって、DGDが今日ますます発展し、評価を高めつつあるのを見ますと、先生の先見の正しさを思い知らされずにはいられません。

本学会の発展の一礎石となられた佐藤忠雄先生に、会員の一人として心から感謝いたしますと共に、先生の御冥福を切に祈るものであります。

昭和52年8月

名古屋大学理学部分子生物学研究施設

江口 吾朗

#### IV 事務局からの報告

- 4月14日、本学会会員佐藤忠雄氏が逝去され、学会より供花を行なった。
- 井出庶務幹事の海外出張に伴ない、高橋進庶務幹事が会長より委嘱された。
- 単行本、“受精の生物学”刊行事業を完了した。会員配布は129部であった。
- 岡田DGD編集主幹の盡力により、DGDとDevelopmental Biologyの間で広告の交換協定がなされた。PRを強化してDGDの海外販売の拡張につとめたい。

#### V 会員異動

##### <新入会員>

- |       |                 |                        |
|-------|-----------------|------------------------|
| 荒木 正介 | 京大・理・生物物理・岡田研究室 | ①培養下における網膜細胞の分化 ②ニワトリ胚 |
| 石川 彬  | 静岡大・理・生物        | ①細胞分化 ②細胞性粘菌           |

- 石黒 誠一 (㊦)仙台市国見2丁目11-12  
今西美和子 (㊦)国分寺市並木町1-15-8
- 入江 伸吉 三菱化成生命科学研究所  
上田 龍 筑波大・生物科学
- 上村伊佐緒 埼玉医科大・細菌学
- 内山 恒夫 神戸市灘区一王山町12-48  
中田アパート1号
- 遠藤 浩良 帝京大・薬・生理化学
- 大久保舜三 大阪大・医・遺伝  
大竹 伸一 (㊦)習志野市大久保3丁目5-3 鈴木方
- 帯刀 益夫 癌研究所, ウィルス腫瘍部
- 亀地 礼子 食品薬品安全センター, 秦野研究所, 病理部
- 北村 邦夫 三菱化成生命科学研究所  
木下清一郎 東大・理・動物
- 久保美代子 (㊦)松山市鉄砲町8-15
- 西駕 秀俊 三菱化成生命科学研究所
- 志田 寿人 東北大・医・第3解
- 清水 隆 (㊦)札幌市東区北22条東8丁目  
ヨシヤマンション
- 杉山 勉 国立遺伝学研究所  
高橋 和秀 東京都立大・生物
- 館 鄰 東大・理・動物
- ①神経系の初期発生(cell death, malformation 他) ②ニワトリ, ネズミ, ヒト
- ①ショウジョウバエにおける生殖細胞の決定と分化 ② *Drosophila melanogaster*
- ①ウニ初期発生における表層の役割, 特に小割球形成との関連について ②バフンウニ等
- ①RNAポリメラーゼ ②カリフラワーの花芽原基
- ①細胞分化のホルモン調節・表皮角質化のグルココルチコイドによる誘導・軟骨細胞の成熟のホルモン調節(副甲状腺ホルモン, カルシトニン, 甲状腺ホルモン, 副腎皮質ホルモン) ②ニワトリ胚・皮膚・長管状骨
- ①発生遺伝 ② *Drosophila melanogaster*
- ①無尾両生類の初期発生, 細胞運動 ②アカガエル, ヒキガエル, アフリカツメガエル
- ①遺伝的制御機構の分子レベルでの解析 ②フレンド白血病細胞, テトラヒメナ
- ①細胞分化における特異的な遺伝子発現の制御機構
- ①核・細胞質間相互作用と細胞分化 ②ウニ(主として *Clypeaster japonicus* および *Hemicentrotus pulcherrimus*)
- ①精子形成-特に先体について ②海産無脊椎動物
- ①単離核小体におけるrRNA合成 ②アフリカツメガエル
- ①膜表層と発生, 細胞分化, 細胞増殖制御との関連 ②イトマキヒトデ, 培養細胞等
- ①卵の変形運動及び極質形成機構 ②イトミミズ卵 (*Tubifex hattai* NOMURA)
- ①発生遺伝学 ②ヒドラ
- ① poly (A) RNA, in vitro protein synthesis  
② *H. pulcherrimus*
- ① Embryology (mammalian), Endocrinology

田中 滋康 群馬大・内分泌研究所  
 田矢 洋一 国立がんセンター研, 生物  
 智片 英治 国立療養所刀根山病院  
 辻村 秀信 東京農工大・一般教育  
 西田 育巧 大阪大・医・遺伝学  
 浜田 義雄 京大・理・生物物理  
 東中川 徹 三菱化成生命科学研究所  
 別所 親房 (旧)京都市中京区西ノ京東月光町34-30  
 松谷 悦哉 名大・理・生物  
 松橋 幸子 三菱化成生命科学研究所  
 真弓 忠範 神戸学院大・薬  
 森谷 常生 北大・低温研  
 安田 佳子 京大・医・解剖  
 山口恵一郎 獨協医科大・総合研究施設  
 山田 和子 防衛医科大・第1解  
 山崎 君江 三菱化成生命科学研究所  
 山本喜代子 名大・理・生物  
 龍崎 正士 北里大・医・生化学  
 若原 正己 北大・理・動物

②ラット, マウス  
 ①イモリの生殖内分泌 ②アカハライモリ  
 ①細胞性粘菌における分化の制御機構  
 ② Dictyostelium discoideum (細胞性粘菌)  
 ①筋肉の発生生理 ②マウス  
 ①昆虫神経系の発生学的研究 ②モンシロチョウ, カイコ  
 ①発生遺伝学 ② Drosophila melanogaster, イエバエ  
 ①ラット水晶体上皮細胞の分化  
 ①蚕の絹糸腺分化と高分子合成 ②カイコ  
 ①鳥類, 胚発生に於ける分化, 器官形成 ②ウズラ, 後肢芽間充織細胞  
 ①精子発生  
 ①実験奇形学  
 ①両生類の変態とホルモン ②ウシガエル, ヒキガエル  
 ①イモリ初期胚細胞の細胞分化過程における細胞周期の変化とその統御機構 ②イモリ  
 ①発生過程における脂質生化学的研究 ②両生類  
 ①生殖細胞の分化機構 ②アフリカツメガエル

<住所変更>

	(新)	(旧)
石谷 昭子	奈良県立医科大・法医学	大阪市住吉区我孫子町4丁目65覚智荘内
伊藤 富夫	静岡大・教育・生物	東京教育大・理・動物
右藤 文彦	浜松医科大・生物	名大・理・臨海実
加藤 秀生	東京医科歯科大・歯・解剖	東京教育大・理・動物
金光 晟	長崎大・医・第1解剖	東京都神経科学総合研究所
河原 明	広島大・総合科学	九大・理・発生生物
岸本 健雄	生物科学総合研究機構・基礎生物	東大・海洋研

北沢 龍郎	(〒192-02) 東京都多摩市豊ヶ丘 5丁目1-10-204	東京都東久留米市ひばりが丘団地32-2
五島喜与大	名大・理・分子生物	武田薬品工業株式会社, 中央研, 生物研
武内 孝平	大阪府立勝山高校	大阪教育大・生
竹内よし子	名大・医・解剖	名大・理・生物
仲村 春和	広島大・医・第1解剖	京都府立医大・2解
野田 伸一	鹿児島大・医・医動物	九大・理・生物
林 盛昭	埼玉県立がんセンター研究所化学療 法部	京大・理・植物
広部 知久	岩手大・教育・生物	東北大・理・生物
保倉 進	(〒190) 立川市曙町2-29-2	聖マリアンナ医科大
松沢 哲郎	大阪教育大・生物	京大・ウィルス研・物理
馬屋原 宏	京大・医・第2解	京大・理・動物
山道 祥郎	筑波大・生物	東京教育大・理・動物

<再入会者>

磯野直秀	慶応大・生物
茅野春雄	北大・低温研

<退会会員>

安蘇規子	岩手医科大・歯・第2解剖
飯塚理八	慶応大・医・産婦
石田秀司	京都教育大・生
市村浩	東大・理・植物
神阪盛一郎	大阪市立大・理・生
河野好伸	M・I・D研究所
小浜一弘	東大・医・薬理
下泉正敏	徳島大・教育・生
庄野邦彦	東大・教養・基礎科学
妹尾左知丸	岡山大・医・病理
高田英夫	帝塚山短大・生物
利根川泰遠	埼玉大・理工・生化
中嶋英治	大阪府立大・教養・生
林孝三	東京都豊島区目白4-10-24
藤井健男	田辺製薬株式会社
前田靖男	京大・理・植
前田みね子	阪大・教養・生
牧岡俊樹	東京教育大・理・下田臨海実

真 崎 知 生 東大・医・薬理  
八 鹿 寛 二 阪大・医療技術短大部  
吉 田 松 年 愛知コロニー発達障害研究所

賛助会員

## 和 研 薬 株 式 会 社

京都市左京区北白川西伊織町25 電話 京都 (075) 721-0491 (代)

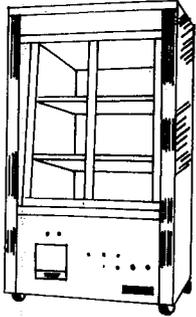
賛助会員

## 三菱化成生命科学研究所

東京都町田市南大谷 11 号

# NK式生物研究用機器

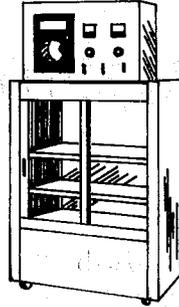
## NK式電気低温恒温器 (送風循環型) 高精度普及型



型式	LP-100 -S型	LP-150 -S型	LP-200 -S型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×380 ×490	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	24万円	27.5万円	30万円

※その他のいろいろなタイプがあります。

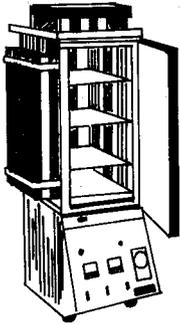
## NK式プログラム電気低温恒温器 (送風循環型) 四季の温度がプログラムで自在に再現できます！



型式	LP-100 -3P	LP-150 -3P	LP-200 -3P
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	460×880 ×480	560×380 ×670	660×410 ×670
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	43万円	45万円	48万円

## NK式人工気象器

植物の育成、小動物(昆虫)飼育の本格派！

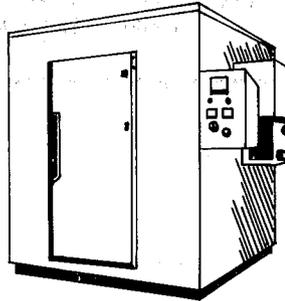


型式	LH-100 -R型	LPH-100 -RD型	LH-100 -RDP型
仕様			
内法 間口×奥行 ×高さ%	360×350 ×680	360×350 ×680	360×350 ×680
温度 範囲	+5℃ ~45℃	+10℃ ~45℃	+5℃ ~45℃
価格	温度のみ 43万円	温・湿度付 65万円	プログラム付 55万円

※その他のいろいろなタイプがあります。

## NK式プレハブ電気低温恒温槽

組立、移設、増設が思いのまま！

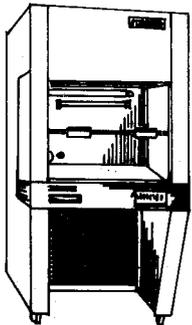


### 精密型

- LH型+5℃~45℃  
価格1坪1,080,000円  
より各種
- LP型+18℃~45℃  
価格1坪1,170,000円  
より各種

※詳細はプレハブシリーズカタログをご請求下さい。

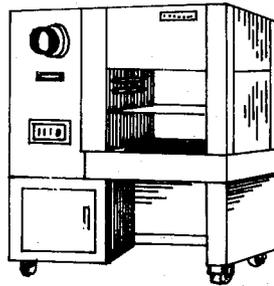
## NK式クリーンベンチ (垂直層流型)



NKB-VS-850  
¥750,000  
NKB-VS-1300  
¥850,000

## NK式クリーンベンチ (垂直層流両面型)

無菌作業の能率アップに！



NKB-VW-850  
¥1,000,000  
NKB-VW-1300  
¥1,300,000

## NKS 株式会社 日本医化器械製作所

本社 大阪府西成区江ノ島北通1丁目25番地  
東京営業所 東京都府中市清水ヶ丘1の3小林ビル  
工場 大阪府東成区新東町5-4番地

電話 大阪06 (443) 7072(代)  
電話 府中0423 (65) 3245  
電話 大阪06 (788) 1383~4

—— 科学の先端をゆく  
スフィンクス印純正試薬 ——

# 名古屋片山化学株式会社

名古屋市中区丸の内3丁目11番4号

TEL. 971-6531(代表)

岡崎出張所	岡崎市大樹寺町字古屋敷3の1
〒444-21	電話〈0564〉21-4203(代表)
小牧出張所	小牧市大字入鹿出新田字宮前1107
〒485	電話〈0568〉73-2291(代表)
浜松出張所	浜松市常盤町282
〒430	電話〈0534〉53-3118(代表)